

画像処理技術のエキスパート 最新アルゴリズムを実用技術へ

開発したシステムの全情報を ユーザに公開

「先進的な画像処理システムの実現に貢献する」これがケーアイテクノロジーの事業ポリシーである。OA機器や産業機器メーカーの研究所などで開発された画像処理アルゴリズムをハードウェアとして実現することが実際の業務の中心となっている。設立以来、4年間で55件のプロジェクトを請け負った実績を持ち、リピートの開発依頼も数多い。保有する特許は2件。

創業者の石井社長は大手OA機器メーカーで画像処理の研究開発を行っていた技術者である。最先端の画像処理技術を研究しているユーザに技術を提供するためには、ユーザと同等の技術レベルを獲得し、画像処理の広範な知識と経験を持たなければならない、という考えを持っている。その考えに基づき、技術者全員が画像処理技術のエキスパートとしてのスキルアップに日常的に取り組んでいる。社内での週1回の技術ミーティング、外部の技術者を交えた勉強会、研究会などを開催、最新の画像処理技術を獲得できる環境を業務に組み込んでいる。また、スキル・アップとしてユニークな「ノージャンパー賞」も制度化している。それ

が、ケーアイテクノロジーの画像処理技術を支えているのである。

ケーアイテクノロジーのノウハウは、「最新の画像処理技術をシステムの中に取り込み、実用化していくこと」にある。55件のプロジェクトすべてに、その時代の最新技術が取り入れられていると言っても過言ではない。なお、ユーザには、取り入れた技術の詳細、回路図、ソフトウェアなどすべての情報を公開している。

最先端画像処理技術を組み込んだ オリジナル・ボード

具体的な開発事例は、ユーザとの守秘保持契約により詳細は明らかにできないが、世界でもトップレベルの画像認識速度を達成したシステム、低解像度、低階調技術で、きれいな画像を再現するプリンタ、画像の濃淡ムラやキズなどをオペレータの介在なしで、自動的に修正するシステムなど、ユニークなシステム開発実績を持っている。

次世代画像処理統合LSIを搭載したCompactPCI画像処理ボード「KIT1010」、自作開発支援PCIボードPLXGetter「KIT1030」などのオリジナル・ボードからもケーアイテク

ロジーの画像処理技術の高さの一端を知ることができる。「KIT1010」は、ボード単体でモノクロ・キャプチャ機能やモニタ出力機能を備えているため、カメラを接続し、ラベリング処理を行い、その結果をリアルタイムに表示できる画像処理ボードである。「KIT1030」はPCI9080、WinDKを使用し、簡単にカスタムPCIボードが開発できる学習ボードである。

納期遅延はゼロ

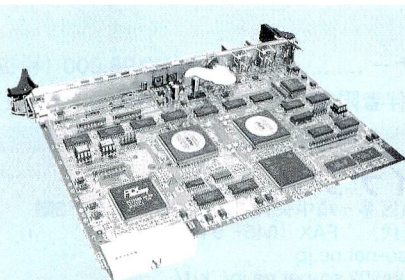
システム開発では、システムそのものの実現とともに、納期も極めて重要なファクターである。ケーアイテクノロジーはユーザとの打ち合わせにより決定した納期は、必ず守り、ユーザの信頼感を獲得している。開発途中での基板回路図、PLD回路図、プロット図、試験成績書などの提供も約束通りのスケジュールでユーザに納品している。

開発環境の充実にも力を入れている。1GHzのデジタル・オシロ・スコープ、2GHz・34チャンネルのロジック・アナライザ、Verilog論理合成ツールとシミュレータなど、ツールの強化に余念がない。

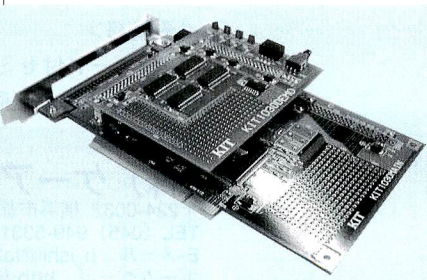
新しい事業として、画像処理ブロックのIP化に取り組み始めた。まだ、IP単体での販売実績はないが、今後、IPの開発にも力を入れていく計画である。

(株)ケーアイテクノロジーの概要

〒224-0003 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎
中央19-1 タウンスクエア3階
TEL 045-949-5331 FAX 045-949-5332
E-メール h_ishii@fa2.so-net.ne.jp
ホームページ <http://www02.so-net.ne.jp/~kit/>



▲KIT1010 CompactPCI画像処理ボード



▲KIT1030 PLX Getter